

平成 1 2 年度試験研究成果

区分	普及	題名	品種 きゅうり 耐病性・多収型の「夏ばやし」
[要約]			
きゅうり「夏ばやし」はうどんこ病に強く、収量性が高い品種である。			
キーワード	きゅうり	夏ばやし	品種 園芸畑作部 野菜畑作研究室

1. 背景とねらい

本県の果菜類の中心品目であるきゅうりにおいて、ブルームレス台木の使用および近年の夏期高温少雨傾向により、うどんこ病の初発が早まるとともに発生量の増加が問題となっている。その対策の一つとしてうどんこ病に耐病性を有し、収量性が安定したタイプの品種の選定が求められている。

「夏ばやし」はうどんこ病の耐病性を有し、側枝の発生も旺盛で、初期収量を含めて収量性の高い品種として有望であるので、その特性を紹介する。

2. 技術の内容

(1) 来歴

うどんこ病・べと病・褐斑病に強く、高秀品率、早生多収を目標に育成された。

平成8年よりT-118Eとして試作栽培が開始される。

平成10年にF1品種「夏ばやし」として命名発表され、市販が開始される。

(2) 特性

ア 収量性 露地普通作型において、商品果収量、初期収量ともに、標準品種である「南極1号」に優る。(表1)

イ 外観品質 良果率は「南極1号」とほぼ同等である。(表1、3)

ウ 生育 「南極1号」に比べて小葉であり、側枝の発生は「つや太郎」より旺盛で、「南極1号」と同等か優る。(表2)

エ 耐病性 「南極1号」よりうどんこ病の病害の広がりが遅く、「つや太郎」と比較しても耐病性がやや優る。(表4、5、6)

(3) 品種育成元

タキイ種苗株式会社

3. 普及上の留意事項

(1) うどんこ病に対して「つや太郎」より強い耐病性を有するが完全抵抗性ではないので、予防に重点を置いた防除を行う。

(2) 小葉ではあるが、側枝の発生が初期から旺盛なので、過繁茂とならないよう整枝、摘葉を遅れずに行う。

(3) 低温期には果形が太めとなる場合があるので、露地普通作型での使用が適する。

4. 技術の適応地帯

(1) 適応地域 県下全域

(2) 普及見込み面積 50ha

5. 当該事項にかかる試験研究課題

野菜1-1-(3)-ア-(イ)-a 夏秋きゅうりの省力型品種の選抜

6. 参考文献・資料

(1) 平成8年度野菜関係試験成績書 岩手園試

(2) 平成9～12年度野菜関係試験成績書(一部未定稿) 岩手農研センター

(3) 蔬菜の新品種14(平成12年) 日本園芸生産研究所

表1 露地普通作型における収量、外観品質

試験年次	品 種 名	商品果収量 (kg/a)	左比 (%)	果実品質別収量割合 (%)					良果率 対比 (%)	初期収量 (kg/a)※
				良果	曲果	尻太	尻細	くず		
H10	夏ばやし	750	110	58	24	4	0	14	112	194
	南極1号 (標準)	684	100	52	25	10	2	11	100	177
	つや太郎	648	95	58	24	4	1	13	112	182
	金星T型	724	106	59	25	3	0	13	113	224
H11	夏ばやし	1,079	120	66	18	3	3	10	106	329
	南極1号	900	100	62	21	2	6	9	100	302
	金星T型	951	106	66	21	2	0	11	106	294
H12	夏ばやし	651	148	55	23	2	2	18	102	304
	南極1号	440	100	54	19	2	6	19	100	236
	金星T型	543	123	52	21	5	2	21	96	258

※初期収量：7月下旬までの商品果収量

表2 露地普通作型における生育

試験年次	品 種 名	草丈 (cm)	主枝節数 (節)	側枝本数 (本)	最大葉の大きさ (cm)	
					たて	よこ
H10 ¹⁾	夏ばやし	190.4	28.1	11.4	19.0	25.6
	南極1号	203.8	27.4	11.0	22.0	28.9
	つや太郎	183.0	25.7	8.9	20.8	26.7
	金星T型	243.5	28.8	11.8	21.1	30.2
H12 ²⁾	夏ばやし	257.0	37.7	18.8	—	—
	南極1号	252.3	36.3	12.2	—	—
	金星T型	291.6	37.7	13.8	—	—

1) 播種後74日目

2) 播種後82日目

表3 露地抑制作型における収量、時期別良果率

試験年次	品 種 名	商品果収量 (kg/a)	良果率 (%)	7月			8月			9月		
				下旬	中旬	下旬	中旬	下旬	中旬	下旬		
H8	夏ばやし	776	80	100	98	82	82	91	75	50		
	南極1号	678	79	100	95	86	74	86	76	52		
H9	夏ばやし	632	42	71	52	45	48	35	18	9		
	南極1号	558	40	57	59	43	45	33	27	18		

表4 うどんこ病発生程度※

試験年次	品 種 名	普通作型	抑制作型
H8	夏ばやし	1	1
	南極1号	5	5
	つや太郎	2~3	2~3

※ 病害発生程度：0 (無発生) ~ 5 (多発)
9月10日調査

表5 園芸品種展示圃におけるうどんこ病発生程度

試験年次	品 種 名	二戸	千厩
H12	夏ばやし	少	無
	南極1号	中	中
	金星T型	少	少

調査時期 二戸：全期 千厩：8月22日

<参考>

表6 育成元における耐病性比較※

(タキイ種苗研究農場)

	うどんこ病	べと病	褐斑病
夏ばやし	7	8	6
南極1号	3	3	4
夏すずみ	7	7	4

※耐病性程度 1 (弱) ~ 10 (強)